

# 2020年度 地理学教室研究交流会のお知らせ

地理学教室教務委員会

5月下旬に新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が解除されましたが、感染の再拡大を警戒しなければならない日々が続いています。地理学教室では感染再拡大のリスク等も考慮し、6月25日開催の研究交流会をZoomでの遠隔講演会とします（状況を鑑みて、今回の参加者は学内限定とします）。ZoomのURL等の入手方法は、研究交流会数日前までにお知らせします。

日時 2020年6月25日 15:00~18:00（予定）

当日のスケジュール（予定）

14時30分 Zoom会議室開場

15時00分~ 「ハイドレートメカニズムを利用したCO<sub>2</sub>地中貯留の提案」  
鳥羽瀬孝臣先生（本学非常勤講師、電源開発（株））

16時30分~ 「地域ブランド米の取り組み-安積平野、郡山市の事例-」  
滝波章弘先生

## 1. ハイドレートメカニズムを利用したCO<sub>2</sub>地中貯留の提案（鳥羽瀬孝臣）

今や世界共通の最大の関心事は「気候変動問題」である。日本は、2050年までに温室効果ガス（主にCO<sub>2</sub>）の80%削減の目標を掲げた。この80%目標を達成するためには、発電部門での脱炭素化がとりわけ重要である。脱炭素技術として、CCS（Carbon Capture and Storage）を取り上げる。Storageに関して、特にCO<sub>2</sub>ハイドレート貯留を中心に、いくつかの話題を紹介する。

## 2. 地域ブランド米の取り組み-安積平野、郡山市の事例-（滝波章弘）

近年、各地で米の品種開発が進み、店頭にも多くの国産ブランド米が並んでいるが、米のブランドの在り方は制度的に統一されていない。ヨーロッパでは、ワインやチーズなどが原産地呼称統制や原産地呼称保護の制度によってブランドとして保証されている。双方に利点と課題があるが、国産ブランド米の意義や課題を福島県郡山市の事例から考えたい。

※ 学生のみなさんも奮ってご参加ください（博士後期課程の地理環境科学セミナーおよび博士前期課程の地理環境科学特別セミナーに該当します）。

問合せ：白井正明（mshirai@tmu.ac.jp）；滝波章弘